ビジネスの遂行に必要な知識、スキル、倫理観を備えた人材を養成。

ビジネス学部は2004年（平成16年）、医療福祉学部と共に本学5、6番目の学部として発足しました（コミュニケーション学部ビジネスコミュニケーション学科から改組）。ビジネスという裾野の広いフィールドを5プラス1の領域からアプローチし、最先端のビジネスの課題に対応できる知識や能力を備えた人材育成を目指します。ビジコミ学科の4年生を含めて、現在は842人が在籍しています。

ビジネス学部長
情報システムコース
梅田敏文教授

専門：経営情報システム論、情報倫理論
学位：M.A（シカゴ大学）
1997年 シカゴ大学大学院
人文科学修士課程修了
1999年 日本アイ・ビー・エム株式会社退社

アカウンティングコース
浅野敬志助教授

専門：財務会計、経営分析
学位：経営学修士（横浜市立大学）
1997年 横浜市立大学院経営学研究科
修士課程修了
2000年 慶應義塾大学院商学研究科
博士課程単位取得満了

ビジネスに必要な知識やスキルを習得

梅田学部長　ビジネス学部はビジコミ学科から改組されたため、現在の3年生が第1期生となります。4年生のうち、27人はビジネス学部に転籍、141人はビジコミ学科に在籍したままです。現在1学年の定員は190人ですが、来年度からは40人増えて230人となります。入学志願者も年々増えているので、多様な学生に来てもらいたいと思っています。

さて、ビジネスという言葉は、取引、商業、企業など様々な意味を持っています。つまりビジネスを行うためには多くの知識やスキルが必要だということです。たとえば会計、経営、情報、経済の理論、国際的な文化と言葉の違いなど。そうしたビジネスの場で起きる事柄を学べるのがビジネス学部で、商学部や経営学部、経済学部などのエッセンスを集めた学部だといえるでしょう。学生には、ビジネスを遂行する上で必要となる実践的なスキルを体得してもらいたいと思っています。

浅野助教授　ビジネス学科は他大学にもあるようですが。

梅田学部長　学部としては愛知淑徳大学が全国で初めて設置したと思います。

ビジネス学部では5つのコース制を取っていますが、非常に垣根は低いですね。学生は1年次で様々な授業を受けて、いろんな先生に接します。その中で2年生から自分が取り組みたい分野を決めますが、自由に別のコースの科目も履修できます。

大塚助教授　学生は将来、自分が何をしたいのかを考えてカリキュラムを組むことになるので、その分、主体性が養われると思います。

梅田学部長　ビジネス学部では2年次からゼミがありますが、本年のゼミ担当教員は25人で、そのうち12人が企業出身者です。一口に企業と言っても都市銀行、証券会社、メーカー、公認会計士など幅広く、私自身もコンピュータ・メーカーの出身です。そうした先生は、自分の経験に基づいた話をしたり、学生を製造や金融の現場などに連れて行って学外教育を行ったりと、実践と結びついた教育を行っています。

5つのコースの特徴

浅野助教授　アカウンティングでは、学生は1年で簿記、2年で簿記を支

左：加藤美帆さん（4年）
右：生駒明也さん（4年）

左：梅田さゆりさん（3年）
右：神村 彩さん（4年）

ファイナンスコース
石坂綾子助教授

専門：経済学、金融システム論
学位：経済学博士（名古屋大学）
1998年 名古屋大学大学院経済学研究科
博士課程単位取得満了
1998年 日本学術振興会特別研究員（PD）

ビジネスストラクチャーコース
大塚英揮助教授

専門：流通論、マーケティング論
学位：商学修士（慶應義塾大学）
1997年 慶應義塾大学院商学研究科
博士課程単位取得満了
1997年 流通政策研究所研究員補
（現：流通経済研究所）

ビジネス学部ビジネス学科
5プラス1の領域
Faculty of Business

1 アカウンティング
簿記を学び、会計知識をマスター。会計的センスと応用力を育成します。

2 ファイナンス
銀行・証券・保険についての理解を深め、ファイナンスのプロを目指します。

3 情報システム
ビジネス分野でのパソコンや情報システムの活かし方を実践的に学びます。

4 ビジネスコミュニケーション
国や性別を越えて「伝える」ため、ビジネスをグローバルな視点から捉えます。

5 ビジネスストラクチャー
成長企業の戦略、ヒット商品のマーケティングなど、ビジネスを成功に導く秘訣を学びます。

+1 ビジネスロー
ビジネスに必要な法律知識を身に付けます。

える会計の制度、基準を学び、3～4年では決算書類を見ながら経営分析を行い、応用力を付けていきます。

生駒さん　僕は1年次に浅野先生の授業を受けてアカウンティングに興味を持ち、学ぶうちに自分に合っていると実感するようになりました。また自分を成長させたいので、大学院の開放科目もできるだけ受講しています。

梅田学部長　4年生に大学院の授業を一部開放しています。生駒君はたくさん受講している方です。

情報システムは、ハードやソフトの開発というよりビジネス分野での活用、つまりユーザーとしていかに情報システムを使いこなすかを学ぶ領域です。企業で想定されるパソコンを使ったさまざまな活動、たとえばプレゼンなどの発表方法や、パソコンを使って企業内でうまくコミュニケーションを取れるようなスキルを身に付けます。

人気の高い資格に初級システムアドミニストレータ（シスアド）がありますが、情報システムの授業をきちんと受けていれば、シスアドの試験の範囲はほぼ網羅できる仕組みになっています。プログラミングの授業も充実しており、システムエンジニア（SE）を目指す人にも十分、対応できます。

加藤さん　1年次は特に将来についての目標はなかったのですが、いろいろな科目を履修するうちにコンピュータに力を入れようと思い、SEに内定しました。

金融とは資金の流れ、人の体の血液のようなもの

石坂助教授　ファイナンスでは、資金の調達や運用について学びます。資金の流れは、人間の体でいえば血液のようなもので、資金の巡りはビジネスにおいてとても大切なことです。

カリキュラムの特徴としては、1年次に経済学や金融論といった基礎的な勉強をします。2年次以降は、銀行・証券・保険などの様々な専門分野をアラカルト方式で学ぶことができます。

神村さん　企業出身の先生に教えていただいた保険ビジネス論という授業は、臨場感あふれる内容でした。

梅田学部長　ビジネスコミュニケーションは、国ごとの文化や言語、ビジネスの慣習、ジェンダーなどの違いを踏まえ、ビジネス上でいかにうまくコミュニケーションを取るかというのがテーマです。4人の専任教員を中心に異文化コミュニケーション、ジェンダー、英語教育などを行っています。

大塚助教授　ビジネスストラクチャーは企業が何を考えて行動しているかを考えていく領域で、マーケティングと経営学から構成されています。

マーケティングは、店にある商品を企業はどのように売り込んでいるのかという、裏にある考え方を捉えます。それを理解することで、学生が社会に出て企画や提案をする時のベースになると思います。

経営学は、経営者でなければ必要ないと思われがちですが、そうではありません。サークルや部、課などの組織を管理して、高い成果を上げようとする時、経営管理はとても役に立つ学問です。

梅田さん　ビジネスストラクチャーを学ぶことで、企業がどんな戦略で商品を売ろうとしているのかを考えるようになりました。企業の決算書を見る機会も増えたのですが、簿記などの知識があると、今後どうするべきかということも分かってきて楽しいですね。企業に対する考え方がすごく変わったと思います。

大塚助教授　僕は模擬授業で高校へ行くことがありますが、高校生にとってビジネスというのは全く別の世界なんですね。しかし身近なコンビニやスーパーを切り口として話すと興味を持ってもらえます。ビジネスストラクチャーはその橋渡しができる学問領域だと思います。

4年　アカウンティングコース（浅野ゼミ）

生駒明也さん

卒論のテーマ「企業の倒産経営論」。
20代は幅広い人脈の中で経営ノウハウを学び、大学で学んだビジネスの知識を生かして起業の準備をするつもりです。卒論は起業時のリスクを減らすため、倒産した企業を分析したいと選びました。
在学中に日商簿記検定2級を取得しました。今後、FPと初級システアドの取得を目指しています。

左より
ファイナンスコース　石坂綾子助教授
情報システムコース　梅田敏文ビジネス学部長
ビジネスストラクチャーコース　大塚英揮助教授
アカウンティングコース　浅野敬志助教授

4年　ファイナンスコース（石坂ゼミ）

神村 彩さん

卒論のテーマ「日本の観光産業」。
夢だった旅行会社への就職が決まりました。仕事に役立つよう、現在、総合旅行業務取扱管理者の資格取得を目指して勉強中です。
卒論は、海外から日本国内への旅行者数に注目し、日本の観光産業の展望を明らかにしたいと思います。観光業について深く知ることで、会社でも役に立つのではないかと思います。

ビジネスの理論や概念に裏打ちされた「即戦力」を育成。――梅田ビジネス学部長

〝競争社会だから利益追求〟ではなく、高い倫理観や使命感を持ってほしい。――浅野助教授

簿記検定をバックアップ 会計教育センターが発足

梅田学部長　現在、大学全体で学生の資格取得を支援しようという動きが進んでいます。たとえば簿記の分野では今年4月に会計教育センターが発足しましたし、情報システムの分野では来年度から情報教育センターでシスアド受験のための講義が開講される予定です。

浅野助教授　会計教育センターは専門学校の先生に来てもらって、日商簿記検定1級から3級までの合格支援講座を無料で行っています。簿記の初学者対象の3級には全学で520人が受講し、6月の検定試験で約200人が3級に合格しました。1年生が多いのですが、内定の決まった4年生が入社前に専門的なスキルを身に付けようと、受講するケースもあります。

生駒さん　僕は2年次に2級を取得し、1級も受けたかったのですが、当時は環境が整っていなかったので断念した経緯があります。

梅田さん　私は高校の時、2級を取得しました。今は1級に挑戦しようと会計教育センターで受講しています。簿記というのは小遣い帳とか家計簿の延長だと思うので、日常的に役に立つと思います。将来は販売関係の仕事に就くのが目標ですが、もちろん仕事にも役立ちそうです。

梅田学部長　神村さんはどんな資格を取得しましたか。

神村さん　資格ではありませんが、英語に力を入れて、ASU　TOEICのクラスを受講していました。

加藤さん　私は今後、基本情報技術者に挑戦したいと思います。

梅田学部長　シスアドや基本情報技術者などは、すでに高校で取得している学生もいるため、さらに上の資格を取得できるような体制作りも考えています。

石坂助教授　ファイナンシャルプランナー（FP）の資格取得を目指す学生も多いですね。取得を支援するファイナンシャルプランニングⅠ、Ⅱが専門科目として単位化されています。

梅田学部長　学生の能力育成という観点から、今後は合格率などのデータを管理し活用する必要もあるでしょうね。入学時にすでに資格を持っている学生もいるので、入学と卒業時に調査することが必要です。

インターンシップ前にマナー研修を実施

梅田学部長　ビジネス学部では2年前からインターンシップを長期的に捉えるようにしました。インターンシップ自体は1～2週間ですが、事前学習として専門家からビジネスマナーを学んだり、終了後には報告書を作成して発表し、意見交換を行っています。

石坂助教授　実際に企業に派遣されるのは25人程度ですが、ビジネスマナー研修は学部全体に開放されています。

浅野助教授　インターンシップは、大学全体ではキャリアセンターでも行っています。ビジネス学部ではインターンシップを単位として認定していますが、いい制度ですから、来年度からは全学的に単位化する方向で進めています。

大塚助教授　うちのゼミで昨年、GAPへインターンシップへ行った学生がいますが、終了後もショップでアルバイ

新・座談会シリーズⅣ
開学30周年を迎えて◎学部を語る4

ビジネス学部

4年　情報システムコース（梅田ゼミ）
加藤美帆さん

卒論のテーマ「電子マネー」。
将来、コンピュータ関連の職に就きたいと漠然と考えていたので、情報システムコースを選びました。卒業後はSEとして働きます。
電子マネーは周囲に使ったことのない人が多く、なぜ普及しないのか疑問に思い、卒論に取り上げました。

3年　ビジネスストラクチャーコース（大塚ゼミ）
梅田さゆりさん

グループ研究のテーマ「消費の二極化」。
ビジネス学部は、幅広い知識が学べる学部だと思い選びました。実際、たくさんの授業を受けて、いろいろな学問に触れることができ、よかったと思います。
これまで初級シスアドと日商簿記検定2級を取得、次は簿記1級を目指しています。卒業後は販売関係に就職したいと思っています。

将来、どう生きていくかを考える貴重な4年間。——石坂助教授

ビジネス学部は、自分探しをしながら現場ですぐ役立つスキルを身に付けられる。——大塚助教授

トを続けています。得るものが多かったようです。

ビジネス研究科に会計専門職専攻を新設

梅田学部長　卒業後の進路は、私のゼミでは金融とソフトウェア開発の分野へ進む比率が高いですね。しかし学生の希望で幅広く職種を選んでいるというが実感です。

大塚助教授　確かに4年間で学生は汎用性のある力を身に付けるため、就職先は多様になります。

浅野助教授　アカウンティングは相対的には金融系が多いでしょうか。それと会計事務所に入って、実務等の経験を積みながら公認会計士や税理士を目指すという学生もいます。

石坂助教授　私のゼミでは、ファイナンス専攻ですので、金融機関に就職する学生の比率が高いですね。次に多いのは旅行業界ですが、メーカーに就職する学生も多いです。

梅田学部長　それと昨年4月にビジネス研究科が開設されましたが、現在は卒業生より外部の方が多い状況です。

浅野助教授　研究科は現在のビジネス専攻に加えて、来年4月より会計専門職専攻という新しい専攻が発足します。高い倫理観やプロ意識を持った会計のプロフェッショナルを育成しようとする大学院で、会計士や税理士を目指す学生の受け皿になるようにと考えています。

これからのビジネス学部に求められるもの

浅野助教授　ライブドア問題や耐震偽装問題などの反省から、ビジネス社会では現在、高い倫理観が求められています。競争社会だから利益追求でいいじゃないかということにはなりません。では倫理観をどう教えていくかですが、学生のうちにボランティア活動などを通して、利益に関係しない社会的活動も経験してほしいと思っています。

　来年度、コミュニティー・コラボレーション・センターが開設されますが、ボランティアの講座や実習も予定しています。単位にもなるので、参加を呼びかけたいですね。

大塚助教授　オープンキャンパスなどで高校生と話すと、自分が将来何をしたいのかを語れる子はごくわずかです。一方、ビジネス学部は卒業生を即戦力として企業に届けるという使命があります。ビジネス学部はこのギャップを埋めることのできる学部です。学生にとっては自分探しができると同時に、現場ですぐに役立つスキルを身に付けることができます。

石坂助教授　ビジネス学部で学ぶことは、自分が将来どのように生きていくのか、働くのかを考える大きな4年間になると思います。将来の糧になるよう、積極的に過ごしてもらいたいですね。

梅田学部長　私が入社した頃は企業内教育というものがあり、入社後の約1年半、ずっと勉強をしていました。現在もそのような企業はあるでしょうが、やはり即戦力として役立つ人材のニーズが高いと思います。ビジネスの基礎をある程度備え、会社の仕組みを理解し、会社人間の共通語と言われる簿記などもある程度理解している学生ですね。

　ビジネス学部ではそのような学生を育てたいと思っていますが、高品質のビジネスパーソン、即ちビジネスの基本的な理論や概念、仕組みを理解した上で、高い意欲や倫理観を持った学生を養成すること。それが本学のビジネス学部に求められる使命であると思っています。